

学校だより



令和2年9月30日
尼崎市立園田小学校
校長 柳 一光

ようやく秋らしくなり、特に朝夕は過ごしやすくなってきました。2学期が始まって1ヶ月半を過ぎ、子ども達の学校生活にもリズムが出てきて、新型コロナで変わらざるを得なかった手洗い等の行動様式も習慣化しつつあります。

9月は既に自然学校と体育参観の2,5,6年生は終わっていますが、今後ともできる限り子ども達のがんばっている様子を、保護者の皆様に見ていただけるようにしたいと考えています。

大人の率先垂範

先日の体育参観(前半)では、多くの保護者の方に参観いただきありがとうございました。新型コロナ対策のための手指消毒やソーシャルディスタンス、会話を控える等の制約がある中でしたが、全ての方がきちんと守っていただいたことに感謝します。子ども達が力を十分発揮しやすかったことはもちろんですが、教職員以外の大人がしっかりルールを守っていることも、目の前で見ている子ども達に良い影響を与えたことは間違いありません。ご協力ありがとうございました。

子ども達は見ていないようで、大人の言動をしっかりと見ているものです。「元気にあいさつしよう」「廊下は右側を静かに歩こう」と子ども達に言うのは簡単です。ですが、自身がしていないのに子ども達にいくら言っても説得力がありません。本校でも『率先垂範』を全員で意識し、まずは教職員が模範を示そうと教育活動に取り組んでいます。

「かたあしだちょうのエルフ」



10月19日から25日の期間は、「いろいろな本にふれて読書の楽しさを味わい、より一層の読書意欲を育てる」ことを目標とした校内読書週間です。

自分自身を振り返ると、低学年の時に繰り返し読んだ「かたあしだちょうのエルフ」が鮮明に記憶に残っています。エルフが動物の子ども達のためにライオンと戦った結果、片足となってしまい、月日が流れるとともにみんなからその存在を忘れられますが、また子ども達がピンチになった時に黒ひょうと戦い、最後はだちょうの形の大木になって子ども達の生活を癒すというストーリーです。

当時の私には不気味な表紙とイラスト、そして命がけで戦って足を失ったにも関わらず、忘れられていってしまうという不条理さが子ども心に突き刺さりました。今ではエルフが戦うことで代償を求めたのではなく、あくまでエルフ自身の生き方だったことが良く理解できます。そして私自身の人生に大きな影響を与えてくれた一冊です。

時代の変化が早く、また何かと忙しく時間に終われるような日々かもしれませんが、保護者の方も子どもと一緒に読書の秋をゆったり楽しんではいかがでしょうか。

10月の行事予定

日	曜	行 事 予 定			
2	金	3年環境体験学習（藻川）	20	火	集会 耳鼻科健診（4・6年）
		2年芋掘り 給食試食会	21	水	お話配達
5	月	クラブ活動写真撮影（6年）			5校時終了後下校
6	火	テレビ朝会	22	木	お話配達 脊柱側弯検査
7	水	歯科検診（全） 5校時終了後下校（全）	23	金	体育参観（予） 2年芋掘り（予）
8	木	放課後学習	26	月	教育相談週間
9	金	3年環境体験学習（予）	27	火	音読朝会
13	火	耳鼻科健診（4・5年）			就学時健康診断（13時下校）
15	木	修学旅行説明会 心臓検診	30	木	放課後学習
16	金	体育参観（1・3・4年）			
19	月	読書週間開始			

《11月の予定》

6日（金）音楽参観

16日（月）クラブ活動

12日（木）避難訓練

20日（金）修学旅行

13日（金）3年環境体験学習【1日】

【体調管理をしっかりと】

ちょうど1ヶ月前は体育の時間を制限しなくてはならないほどの猛暑でした。その時と比較すると、今は朝夕寒いぐらいの気候になってきました。手洗い等の新型コロナの感染予防と同時に、上着の着脱で体温調節を適切に行い、病気になることなく元気に学校に来てほしいです。ご協力よろしくをお願いします。

【教育実習生が来ています】

9月23日からの約1ヶ月間、3人の教育実習生が本校に来ています。おもに2年・4年・5年のクラスに入って実習しています。園小の子どもたちと関わり合い、学び合うことで、子どもたちも実習生もお互いに大きく成長してほしいです。

2学期になると戦争に関係した書物を児童や先生方が借りに来られる。中でも、大川悦生の『おかあさんの木』（教科書にも登場する）がよく読まれている。

私の父四郎は五人兄弟で、一郎、二郎さんは海軍で戦死。三郎さんは南島で太ももに被弾したまま帰還。父は当時、目に伝染性の疾患があり入隊できず、命は助かったものの人々の目は冷ややかで つらかったようです。五郎さんは若年で軍隊に行かず、兄弟の中では一番長生きをされた。もう私には戦争の実体験を語ってくれる親族はいませんが、書物が戦争の非情さ、むなしさを子どもたちに語り伝えてくれればと願います。

（読書力向上担当 高須賀 幸郎）